4 国語（アラビア語）

＊アラビア語は憲法で定められたエジプトの公用語です(憲法第 2 条)。一般の公立学校では、教授言語も基本的にはアラビア語ですべての教科を教えており、教科としての「アラビア語」をみても週あたりの授業時数は一番多く設定されています。

＊エジプトの学校教育で公用語であるアラビア語の学習が重要視されている、ということは一見当たり前のことのように聞こえますが、そこには国語(国の言葉)とはなにかという複雑な問題が潜んでいます。というのも、アラビア語には大きく二つの種類があります。ひとつはフスハーと呼ばれる文語で、クルアーンのアラビア語であり、アラブ世界のメディアや公的な場で共通して用いられる言語です。もう一つはアーンミーヤと呼ばれる口語で、アラビア語の方言とも説明される言葉です。日本語も含めて書き言葉と話し言葉が異なることは大なり小なりよくあることかもしれませんが、アラビア語の場合、この文語と口語の違いが非常に大きく、アラブ人であっても一定の教育を受けなくては文語を正確に扱うことはできません(外国人にはほぼ違う言葉に聞こえます)。例えば、元気ですか?と尋ねるときに文語では「kayfa hālka?」といいますが、エジプトの口語では「ezāyyak?」といいます。結果的には、いずれの時代も学校教育では文語を重視する方針をとることとなりますが、教育や文学の場においてどちらを優先すべきであるのかは国際公用語や学術的言語として用いられる文語を重視し、アラブの連帯感やイスラームの伝統を優先すべきか、それとも口語を重視しエジプトという土地に根ざした言葉を優先すべきかという立場の違いにも結びつきます（平, 2021)。どのアラビア語を「国語」として学校で学ぶべきかは、単なる利便性を超えて、エジプトの人々の国家観やアイデンティティと関わる問題です。

図．アラビア語書道におけるさまざまな書体(本田, 2001)

＊学校でエジプトの人たちがアラビア語を学ぶ時、日本に住む人が学校で学ぶ「国語」の日本語同様、それまでエジプト（さらにいえばアラブ世界)で培われてきた数多くの豊かな言葉の技法を学びます。そこには、もちろん散文や詩の読解、文法などの学習もありますし、アラビア語書道(カリグラフィー)の内容も含まれています。イスラーム世界では、神の啓示としてのクルアーンを美しく書く使命感が書道の発達を促したとされ、今日も多くの書道家が活躍しています。歴史的に数多くの書体が生み出され、アラビア語文化を彩ってきました(図)。ちなみに、展示されている「アラビア語書道」の教科書のページはルクア体といわれる書体で、子どもたちにアラビア語のアルファベットのつながり方や文字のバランスを教えています。

- 平寛多朗(2021)『エジプトの「国語教育」: アラブ人の歴史とアラビア語文学史』. 風響社.
- 本田孝一(2002)「書道」大塚和夫・小杉泰・小松久男・東長靖・羽田正・山内昌之（編著). 『岩波 イスラーム辞典』. 岩波書店.